

1 浜松市沿岸の津波対策について

1) 防潮堤の整備状況

浜名湖今切口から天竜川までの沿岸約 17.5 kmのうち、令和元年 10 月末時点で、全ての区間で防潮堤本体工事に着手しており、全体の約 9 割に当たる 16.1km で標高 13mの防潮堤が竣工している。防潮堤本体は今年度中に竣工させる。

なお、令和 2 年 3 月の竣工報告会の開催を予定している。

2) 馬込川河口部の津波対策

12 月 4 日の地元代表・有識者会議を経て、馬込川河口の津波対策を「水門方式」とする方針案を正式決定した。今後、年度内に河川整備計画について国の同意を得るとともに、水門建設の早期着手に向け必要な調整や設計等の準備を進める。

なお、浜名湖へ遡上する津波を減衰させるため、今切口西側（湖西市側）において、浜松市側の防潮堤の対になる命山の築造、防潮堤の嵩上げを実施している。

2 大規模豪雨災害対策について

1) 抜本的改修

・整備計画に基づく改修の進捗状況

馬込川においては、河口部から高塚川合流点に向けて河床掘削を実施している。

安間川においては、遊水地の整備を進めるとともに、東海道新幹線から国道 1 号に向けて断面拡大を実施していく。

堀留川においては、新川合流点の水門工事を進めるとともに、上流部の河道拡幅を加速するため用地買収を進めていく。

2) 緊急的対策

・防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策

豪雨の激甚化への緊急的な対応として、狭窄部などの河川流下能力を向上させるため、安間川、都田川、阿多古川、気田川等において河道掘削や伐木を行うとともに、堤防の質的強化のための天端舗装を実施している。

・災害等予防保全緊急対策

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえ、令和元年から 2 年度までの予定で、ライフライン施設の浸水被害防止等を図るため、堀留川、釣橋川、阿多古川、気田川において、施設の整備等を実施している。

3) 円滑な避難活動に資する対策

・浸水想定区域図

台風 19 号の被害を受け、浸水想定区域図の策定を小規模河川に拡大することとしており、本年度の補正と令和 2 年度の予算により区域図の作成を進める予定。浜松市内では、本年度までに策定を終える予定の 10 河川（水防法指定 7 河川含む）に加え、指定外の河川についても策定を進める。

・ホットライン

氾濫の恐れなど水象状況が切迫した場合、所長から市の危機管理監に直接情報伝達を行うもので、平成 28 年度から運用を開始した。本年度は 5、7、10 月に 3 回情報伝達を実施。

・水害リスクコミュニケーション

施設の能力を超える洪水は必ず発生することから、水防災に対する流域住民の意識向上のため、浜松市と連携して 10 月に三ヶ日地区（釣橋川）において、試験的に水防災講座を開催した。同講座の検証を踏まえ、引き続き各地域で講座を開催していく。

・危機管理型水位計

近年各地において豪雨災害が発生したことを踏まえて国が実施した緊急点検に基づき、洪水に特化した「危機管理型水位計」の設置を新たに進めることとした。県内では的確な避難判断が必要な 105 河川について、平成 30 年度から令和元年度に水位計を設置し、観測体制の強化を進めている。そのうち、当事務所では 11 箇所において水位計を設置しており、インターネット等により一般に公開している。

・市と連携した浸水対策

近年、豪雨が局地化、集中化、激甚化している中で、下流からの河川改修のみでは対応が困難な上流域の内水浸水に対して、現在策定中の「浜松市総合雨水対策事業」（仮称）との連携により治水対策を進める。

4) 大規模氾濫減災協議会

・関係者の連携

施設では防ぎきれない大洪水は発生するとの意識のもと社会全体で洪水氾濫に備えるため、国、県、市町などの関係機関を構成員とする、「静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会」を設立しており、重点項目を設定するとともに施策の調整を行い、引き続き、ハード・ソフト一体となった対策を各機関連携のもと総合的に推進していく。

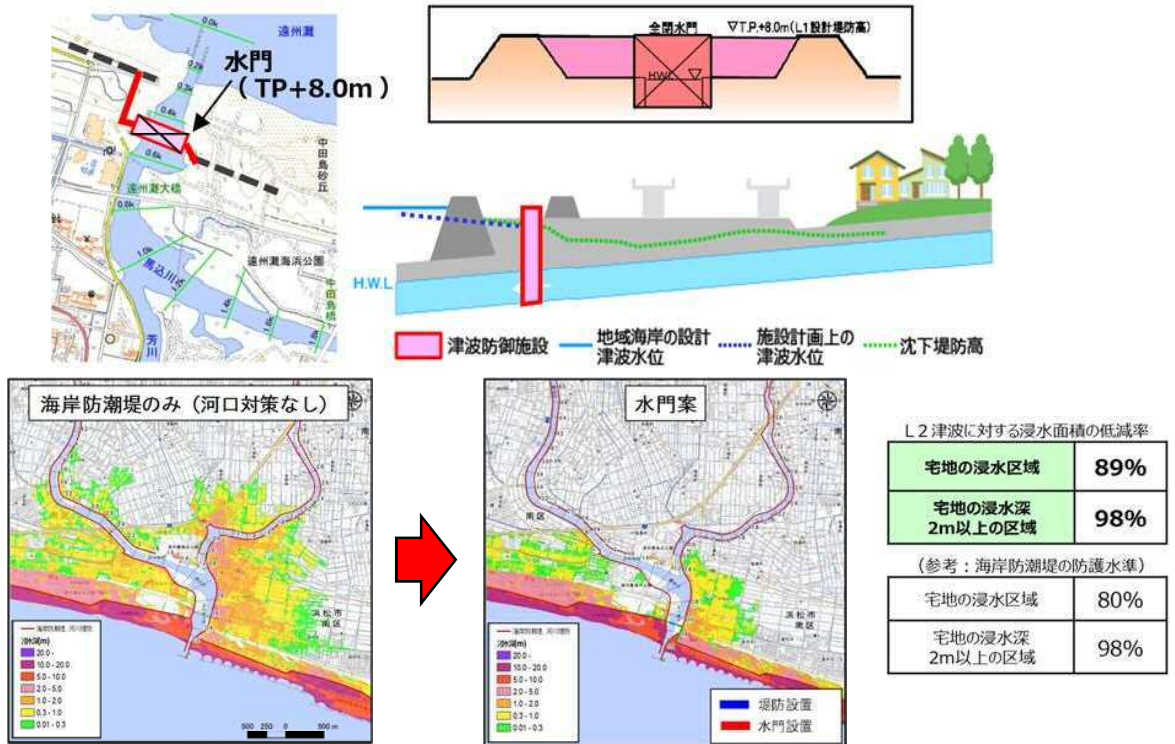
【参考資料】

1 浜松市沿岸の津波対策について

1) 防潮堤の整備状況



2) 馬込川河口部の津波対策



2) 円滑な避難活動に資する対策

・ 浸水想定区域図

県管理河川における浸水想定区域設定河川数

状況	内訳 県全体	内浜松土木	
		浜松市	湖西市
設定済	46	7 (都田川、井伊谷川、釣橋川、馬込川、 芳川、安間川、阿多古川)	-
策定中	15	3 (二俣川、気田川、水窪川)	-
今 後	458	54 (新川、東神田川、堀留川、伊佐地川、花川、日 比沢川、宇利山川、都築大谷川、西阿多古川、米 沢川、西川、杉川、河内川、相川など)	6 (入田太田川、笠子川な ど)
計	519	64	6

・ ホットライン

年度	水位超過		ホットライン	備 考 (下線は、ホットライン実施)
	避難判断水位	氾濫危険水位		
H28	2回(2河川)	0回	0回	5/17、9/5
H29	2回(3河川)	2回(5河川)	2回(5河川)	<u>6/21</u> 、 <u>10/23</u>
H30	4回(3河川)	2回(3河川)	2回(3河川)	6/20、 <u>7/6</u> 、9/1、 <u>9/30</u> 、10/1
H31(R1)	3回(5河川)	3回(4河川)	3回(4河川)	<u>5/21</u> 、 <u>7/22</u> 、 <u>10/12</u> ※R1.11.30 現在

・ 水害リスクコミュニケーション (三ヶ日地区における水防災講座開催状況)



静岡大学岩田教授による講演



自治会長、自主防災隊員の聴講



熱心に質問する聴講者

・危機管理型水位計

危機管理型水位計設置検討河川: 105河川
(県管理河川)

選定条件
【洪水予報・水位周知河川に未指定の河川を対象】

- ・市町・病院等の重要施設
- ・重要水防箇所A
- ・重要水防箇所B
- ・過去10年浸水実績

の所在地に係る河川

浜松土木: 11河川

- 市町拠点: 1河川 (西川)
- 重要水防箇所B: 6河川
(杉川、米沢川、入出太田川、都筑大谷川、東神田川、日比沢川)
- 過去10年の浸水実績: 4河川
(相川、河内川、西阿多古川、宇利山川)

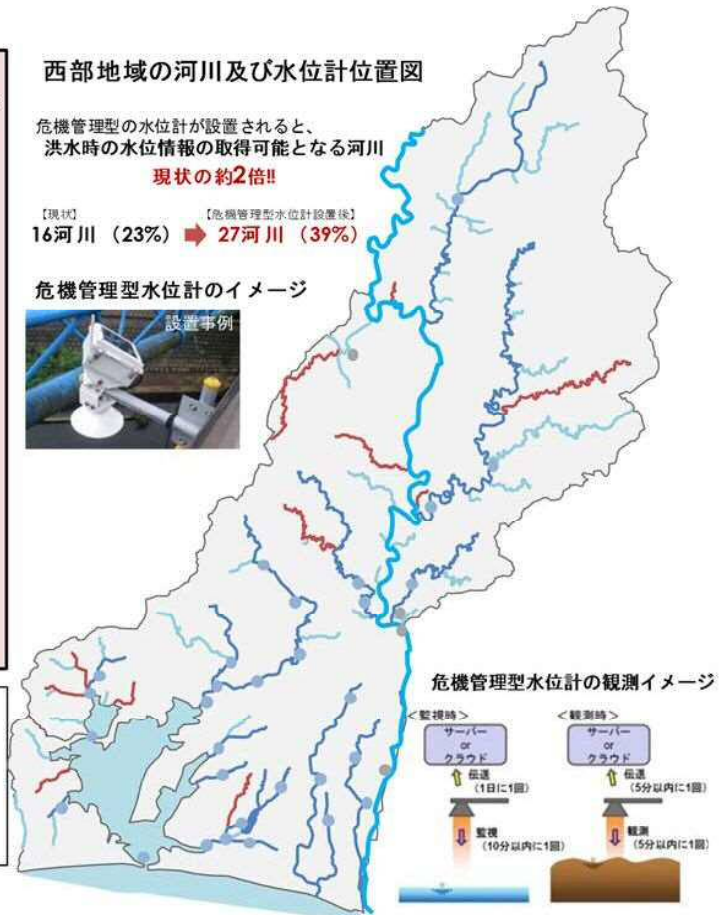
— 国管理河川(天竜川) ● 国所管水位計(4箇所)
— 県・政令市管理の一級及び二級河川
— 水位計設置河川16河川 ● 県所管水位計(33箇所)
— 水位計設置検討河川(県)11河川
— 水位計無し54河川

西部地域の河川及び水位計位置図

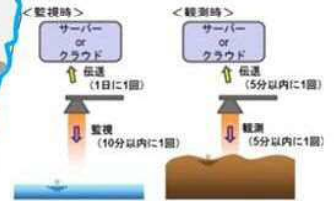
危機管理型の水位計が設置されると、
洪水時の水位情報の取得可能となる河川
現状の約2倍!!

【現状】 16河川 (23%) 【危機管理型水位計設置後】 27河川 (39%)

危機管理型水位計のイメージ



危機管理型水位計の観測イメージ



・市と連携した浸水対策

流域が一体となった治水対策の推進

○ 河川対策、下水道対策に加え、調節池などの整備により「ためる」、浸透ますなどの整備により「しみこませる」などの流域対策を組み合わせ、流域が一体となった治水対策を推進

遊水機能を有する土地の保全

校庭貯留

調節池

浸透ます・浸透トレレンチ

洪水時

流域対策

流域が一体となった治水対策

河川対策

洪水調節施設

下水道対策

内水排除施設

雨水貯留管

河道整備

3) 大規模氾濫減災協議会

令和元年度 静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会 開催概要



【開催目的】

大規模氾濫による災害の軽減に資する取組を総合的かつ一体的に推進するため、「静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会」を開催しました。新たに高齢者福祉部局及びダム管理者が参画して、関係機関が連携して取組むべき事項について協議し、各構成員が実施している減災に係る取組状況や取組予定を共有しました。

【開催概要】

日 時: 令和元年5月31日(金) 15:00~16:45
 会 場: 静岡県浜松土木事務所 1階大会議室
 出 席: 下記協議会委員参照
 議 事: (1)協議会開催の経緯 (6)今後のスケジュール
 (2)協議会規約の改正 (7)その他
 (3)平成30年7月豪雨の概要について
 (4)令和元年度の取組方針
 (5)平成30年度・令和元年度の主な取組

協議会開催状況



【主な発言内容】

- ・掛川市長: 水防法で義務化されていない中小河川についても、洪水浸水想定区域図を作成して欲しい。
- ・浜松市危機管理監: 市町ではハード対策への対応に限界があるため、国・県において推進して頂きたい。
- ・気象台長: 洪水・土砂の複合災害を対象に、ワークショップを行政職員向けに実施していく予定である。

発言の状況	浜松市 危機管理監	磐田市 副市長	掛川市長	袋井市 都市建設部長	湖西市 市民安全部 長兼危機管理監	御前崎市 危機管理 部長兼危機管理監	菊川市 危機管理監 兼危機管理部長	森町長
危機管理部参事 (防災対策担当)	西部地域局副局長 兼西部危機管理監	健康福祉部 長寿政策課長	交通基盤部 河川砂防局長	袋井土木事務所長	浜松土木事務所長	静岡地方気象台 防災管理官	浜松河川国道 事務所長	電源開発㈱ 水力発 電部中部支店長